

庚姫尊

1976 年、莊白一号窖藏出土。周原博物館蔵。

通高 30.4 cm、口径 23.6 cm、腹深 22.9 cm、重さ 5.9 kg。

口が広く、腹は鼓状になっている。装飾花紋に浮彫手法が採用され、扉棱によって四面に区分されている。

胴は夔龍紋、腹部と圈足は饕餮紋、口沿下は蕉葉紋で飾られている。腹内底に 6 行 30 字の銘がある。

佳五月辰在丁

亥帝后賞庚

姫貝廿朋迭絲

廿爰商用作

文何日丁寶

尊彝



折觥

1976 年莊白一号窖藏出土。周原博物館蔵。

通高 28.7 cm、長 38 cm、腹深 12.5 cm、重さ 6.7 kg。

觥は正式には兕觥(じこう)という中国古代の酒器である。『詩経』卷耳には「我、姑(しばら)く彼の兕觥に酌まん」とある、器体は、足、腹、鋳(把手)、盖、流(注口)の各部に分けられる。主に商(殷)代と西周前期に見られる器形である。

折觥は、西周王朝の史官折が作ったもので、方形の蓋の先端は羊の首となり、曲った角と丸く脹らむ大きな目、剥き出した牙、大きな鼻がある。後端部は獣面になり、大きな目と横一文字に開いた口、眉は夔龍紋(きりゅうもん)になっている。蓋の背中央部には形の異なる二つの獣首が並び、両側を一对の顧首卷尾の夔龍が飾っている。

身の先端上部は注ぎ口となり、下部は長方形を呈している。方形各面の中線と四隅には透し彫りの稜飾があり、どっしりと落ちついた印象を与えている。紋様の主なものは、二匹の夔龍が組み合わせられる饕餮紋である。圈足は顧首の夔龍紋で長い尾がうねっている、把手は三種の動物が彫り出されている。上は獣首、中央に飛び立とうとする鷺鳥、下方は象の鼻で、非常にバランスがとれている。

蓋と身には 6 行 40 字の同文の銘があり、作器の事情が述べられている。銘文によれば、王は史官作冊の折に相候を賜わり、望土を贈った、並びに青銅と奴隸を賜わった。折はこの事を記念し、亡父をしのぶためにこの器を作ったとある。

佳五月王在序戊

子命作冊折貺望

土于相侯錫金錫

臣揚王休唯王十

又九祀用作父乙

尊其永寶

